

二泊三日、北海道の学びレポート

地域で生きていくこと

文京支部の若手例会「BNK538の会」は二〇二二年一月に北海道合宿を行った。一日目は会員企業の印刷会社(株)アイワード(本社・札幌)を見学した。売上は、北海道と首都圏で半々という企業で、その原動力は「情報処理+印刷×高級カラー印刷」という事業ドメインと、従業員二七〇名のうち女性の比率が四割、障がいのある人たちの比率が一割という会社づく



4割が女性、1割が障がいのある従業員構成だというアイワードを見学する

りにある。初日の企業見学で「人間が地域で生きていくことは？」というテーマが投げかけられた。

恵庭、街づくりの土壌

翌日、花で街づくりをしている恵庭市を訪れた。コーディネーターは、サンガデンの土谷美紀さん。「戦後の農地改革のとき、平野部の十町歩か、高台の五町歩かを祖母が高台に決めました。皆が、広い土地を求めたとき祖母は、この狭い土地にしよう」と、祖父を説得しました。それから三〇年後の昭和五六年、大洪水で平野部は壊滅し、この土地は守られました。祖父が残した防風林と父が埼玉県川口市安行から仕入れた木々がサンガデンの庭を支えてくれています」と語る土谷さんの話から、先達の資産を大切に継承する思いが伝わってきた。

BuNKyo538の会は、若手の50代・30代・20代×40代) = 80の会です。

道の駅「花ロードえにわ」の開業

時、名称が後付けの為、花のしつらえが一切なかったという。そこで地域の人が花を植えてオープンさせた。



「花は土づくりが一番大切」だと語るサンガーデンの土谷美紀さん

「花の街づくりは、予算があつて始まったものじゃないの。自ら苗を買い、自ら花のお世話をするような住民の取り組みと行政とが手を携えてきたから出来たの」と土谷さんは、誇らしげに案内してくれた。

酒造りと北海道農業

三日目は、北海道最古の蔵元、栗山町の北の錦、小林酒造だ。「北海道の米がとても美味しくなり、今まで本州米に依存していましたが数年前から全酒、北海道産米で酒造りをしています」という説明に私たちは、日本酒が農業と密接につながっていることを今更ながら実感するのであった。かつて北海道の炭鉱が隆盛を誇っていた頃、馬櫓で夕張炭鉱へ北の錦が運ばれたという。命と引き換えの仕事

